

“おもしろくて ためになる 学びの共有”
わかちあい

秋田県教育カウンセラー協会機関誌

教育カウンセラー あきた

第16号

2009年（平成21年）10月10日発行

教育カウンセラーへの 理解を深めたい

秋田県教育カウンセラー協会
代表 水戸谷 貞夫

日本教育カウンセラー協会が設立10周年を迎えられることになりましたことを喜ばしく、皆様と共に、心からお祝い申し上げたいと存じております。

本県の教育カウンセラーの場合は、設立当時から関わられた方々や公開講演会や養成講座等に参加され、有資格者になられた方もおります。平成14年に協会会長の國分康孝先生からのおすすりめもあり、有志の方々とともに翌平成15年に秋田県支部を立ち上げることができたのでした。当時の、設立準備委員会は20名でした。（現在は、改組して秋田県教育カウンセラー協会と称することになり、会員も100名近くになりました。しかし、秋田県支部と称することも認められておりますし、本部からの指導・援助もいただいております。）

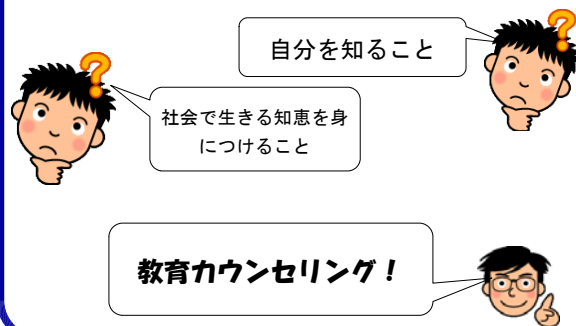
協会本部では、教育カウンセラーの有資格者を全国で4万人を目指し、努力を続けておられます。47都道府県から数えますと、本県では800名から1000名の有

資格者が望ましいものと考えております。しかし、ここ2～3年は、多くの職場が忙しくなり、養成講座への参加者が少なくなり、新たな努力が望まれているものと考えております。

日本教育カウンセラー協会の設立趣旨書には、一般市民（言うなれば、日本国民）に対して、教育カウンセリングの考え方や方法を普及することが第一に上げられております。このことから、「教育カウンセリング」についてのいわゆるPRに努めなければと思っております。（私の場合、各郡市の退職された先生方や現職の校長先生方の会に出席する機会がありますので、新しい教育課程でみられるキャリア教育の一環として、などと説明しておりますが、なかなかご理解を得られないのが悩みであります。）

会員の方々のご尽力をお願いする次第であります。あるボランティア活動の会合では、次の会合には、右手にひとり、左手でひとりの3人でおいでくださいと呼びかけているところもあります。お互いに知恵を出し合って理解を深めたいと願っております。

キャリア教育に必要なことは？



昨年行われた研修会の紹介

『職員教育に生かせる

教育カウンセリング』

期日：平成20年9月21日(日)

講師：浅沼 知一

(上級教育カウンセラー)

7年前に発足した教育カウンセラー協会は、青少年の健全育成を目指して「教育カウンセラー」の育成に尽力して参りました。教育カウンセラー養成講座や公開講座に参加された方々から、職場に生かせる内容が多いことから、「ぜひ職場を中心にした研修会をとの要望に応えることにいたしました。「生き生きとした職場生活」「望ましい人間関係の職場作り」に関心をお持ちの多くの方々のお越しをお待ちしてご案内申し上げます。

主催：秋田県教育カウンセラー協会

後援：大仙市 秋田産業保険推進センター 大仙市・仙北市・横手市・湯沢市・美郷町・羽後町・東成瀬村 各教育委員会 (案内チラシより)

教育カウンセラー協会の活動が広がりを見せ、企業にも必要とされるようになってきました。

今年4月から再開された大曲学習会(魁新聞からも取材を受けた)には学校教員以外の方々の参加が多いことに驚いておりましたが、教育カウンセリングの種がこれまでにまかれていたことの成果であったことがわかり納得しました。以下に感想を載せます。

参加者の感想(一部)

- ・ちょっと場違いかもしれないと恐縮しましたが、内容はとても勉強になりました。自分の仕事に生かせるヒントがたくさんあり、私自身の生活を見直すきっかけにもなりました。ありがとうございました。
- ・シェアリング方式の集団スーパービジョンをぜひ取り入れてやってみたいと思います。「ほめてしごとをしてもらう」こ

こらへんが少したりなかったなと思います。

- ・人間関係を良好にしながらのシェアリング方式の集団スーパービジョンは、日常の中で大いに役立てることができそうです。そのためにはやっぱりまわりの方々と共に育つという意識が必要なことを再確認いたしました。ありがとうございました。
- ・私自身タバコにフィルターがない人間なので、シェアリング方式の集団スーパービジョンのやり取りを聞いて、なるほど、そういう言い方をすればいいんだと、指導者として学ぶことが多く感じました。
- ・集団スーパービジョンの演習は大変参考になりました。今年の新入職員の仕事能力の進行具合について、本人かやの外で話し合いを行い、大変申し訳ないことをしたと反省している。今後すぐにでも、今日のスーパービジョンを参考に行いたい。
- ・今日はいいお話を伺うことができ、ありがとうございました。人を傷つけないで話をする方法を、普段わりと何気なく実践しているわけですが、このように理論的に体系づけられて教えていただきますと、とっても理解しやすくなるものですね。今まで様々なカウンセリングに関する研修を受けてきましたが、浅沼先生のもっともあたたかい語り心地が心地よかったです。後半のスーパービジョンも、とても参考になりました。同時に職場の上司が皆、このような民主的な方ばかりだったら

一緒に学びましょう!!



どんなに居心地がいいだろうと感じました。

今後への希望

- ・職場等において職員の課題や困難に対するアドバイス等の方法(今日の講話)を習得したい。もっと増やしてほしい。
- ・アスペルガー的社会人にどう対応するかです。
- ・家庭内における人間関係をよりよいものにするための研修会などもあれば、とても興味深く参加できると思います。

新 役 員 か ら

初めまして。今年度理事という大役を引き受けしました。微力ながら頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

私は約6年間看護師として病院勤務し、現在看護教育に携わっています。その過程で看護に関する知識だけでは学生は育たないと気づきました。自我同一性を獲得する時期にある青年期の学生さんが「一人の人として」「看護職として」成長する関わりが大事なんだと模索していた時、教育カウンセラー協会の活動を知りました。「健康な人を対象に教育現場で実践でき人が育つ」それが魅力的でした。今では「多いに悩み考えるのが普通で皆さんの課題です、大きな声で言えませんが何でもあります」と自信をもって言い「えーっ」という反響を楽しんでいます。授業の中では、対人関係を自ら築いていけるよう、自己理解や他者理解等を目的にSGEを実施しています。ちなみに今年度のゼミナールのグループ名は「めざせ、しずかちゃん」でした。今後ともよろしくお願いいたします。

理事 小坂 信子

日本赤十字秋田看護大学 准教授

「よろしくお願ひします」

2003年の教育カウンセラー養成講座に國分康孝先生がいらした折、先生の著書を購入し、サインを頂きました。それが、教育カウンセラー協会にお世話になる予兆だったのかもしれませんが。といっても、私はカウンセリングについて深く学習しているわけではありませんので、理事としては半人前かもしれません。現在は、教頭として、生徒がかかわり合っ共同で学ぶ授業、つまり「対話のある授業」を学校に根付かせることを目標にしています。教育カウンセラー養成講座での学習が大いに役立つものと楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

理事 齋藤 正仁

秋田市立桜中学校 教頭

☆自己紹介&抱負☆

私は、現在、秋田市立川添小学校で特別支援学級の担任をしております中村千秋と申します。5年前に、楽しい学級作りや子どもや保護者の方々との信頼関係をさらに深めるためにカウンセリングを学んでみたいと思い入会いたしました。昨年から仙台に単身赴任している夫と小学校5年生の息子と2年生の娘の4人家族です。好きなことは、雲を眺めること・食べること・笑うこと・踊ること・歌うこと・おしゃべりすること等です。モットーは「ピンチはチャンス！」と「笑う門には福来たる！」です。…新役員になり、大変戸惑っているというのが本音ですが、持ち前の「何とかなる精神」を発揮し、明るく前向きに学びながら少しでもお役に立てるように頑張っ参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局次長 中村千秋

秋田市立川添小学校 教諭

新理事の石黒瑞穂です。養護教諭として、不登校、保健室登校や悩みを相談に来る児童生徒たちと付き合ってきました。小学校から今の中学校に来て7年目になります。中学校に来た当初、あどけない小学生とばかり過ごしてきた私にとって、思春期真ただ中の、悩める中学生との対話は、戸惑うことが沢山ありました。そんなとき、教育カウンセラー協会の講座を受講しました。その時の講座で、講師の先生方の講演と参加者の方々の熱意に、沢山の元気をもらったことを、今でも思い出されます。

どちらかというところ、おせっかい傾向の私ですが、理事の仕事に積極的にお手伝いしながら、カウンセリングの勉強を重ねていきたいと思っ参ります。どうかよろしくお願いいたします。

理事 石黒 瑞穂先生

秋田市立将軍野中学校 養護教諭

この教育カウンセラー協会の設立時、河村先生の講演があることを職場の回覧で知り、同職していた高橋道子さんにも誘われたので安心して千秋会館に足を運んだのがきっかけです。こんな話が聞きたかったと感動し、以来秋田にいてこんな話が聞けるなんて！と教育カウンセラー教会の事業に興味をもちました。「楽しく ためになる 学びの共有」とはまさにこのこと！毎回養成講座ではたくさんの方の事を勉強させていただいております。そんな中、スタッフのみなさんが一生懸命準備しているのを見て座ってられないなあ、なにかお手伝いできたら（お茶くみ、物運びなど）と思いと入会しました。役不足ではありますが、どうぞよろしくお祈りいたします。

理事 木村 優子

横手市立雄物川北小学校 教諭

カウンセリング・トピックス

「共感的理解について」

カウンセリングの理論・技法は多数あるが、わが国において最も普及しているのはロジャーズが提唱した「来談者中心療法」であろう。ロジャーズはカウンセリングなどの援助関係を「成長促進を目指す」「心理的に成熟した人によって作り出される関係」と考え、人と人との関係を重視した。そのうえで、カウンセリングは技術ではなく態度であるとして、カウンセラー側には3つの基本条件、「受容（無条件の肯定的配慮）」「共感（共感的理解）」「自己一致（純粋性）」が必要であると述べている。

カウンセラー（援助者）が嘘偽りのない態度で（自己一致）、クライアント（来談者・支援を受ける者）の気持ちに添い、あたかも自分自身の気持ちのように感じ取り（共感）、価値評価をせず、あるがままに温かく肯定的に受け入れる（受容）ことで、建設的・治療的な変化（＝成長）が生じる... という理論であった。「カウンセリングは、受容・共感・自己一致だけ出来れば良い」と極論されることもあ

るが、それだけ難しく奥深い、習得には長期間の研鑽が必要な条件であるとも言えよう。その中でも、今回は「共感的理解」について検討してみたい。

「共感」を試みながら、失敗してしまうこともある。例えば、「相手の気持ちに添う」つもりが、「相手の感情に巻き込まれる」ケース。自分と相手との距離を失って、クライアントの怒り、恐れ、苦しみといった感情をカウンセラーが同じように持ってしまうことも少なくない。

また、感想を言葉にするのを「共感」と誤解していることも多い。あるカウンセリング研修会で、クライアント役が話す都度、「まあ、可哀想」「わー、ひどい」「負けちゃダメよ」を連発するカウンセラー志望者の面接演習を見たことがあったが、これは共感ではなく「同情の押し売り」であろう。

注意を要するのは、自分の得意分野・領域であったり、自身が類似の経験をしている相談の場合である。「良く解る」内容であるほど自己の価値判断が混入し易く、共感本来の「相手の立場・視点・内的な枠組みの理解」から遠ざかる可能性が高まる。「わかるわかる」が口に出そうになった時、この陥穽にはまっていないか、自戒したい。

共感とは「... あたかも自分自身の気持ちのように感じ取り ... 」と定義されているように、「完全に同じ感じ方は出来ない」が前提になっている。それに留意していれば、「わかる」という応答の不適切さを理解できるのではないか？

自分と相手との距離を把握し続け、気持ちを添わせようと努力する「共感」を行おうとするなら、それは自分の理解を伝え、クライアントに問う「確認作業」になるのかもしれない。「私がアナタと同じ立場だったら〇〇と思うのですが、アナタはどうですか？」「アナタの話を、私は●●と理解しましたが、それで宜しいですか？」... といった問いかけによって、クライアントは「私の気持ちを、解ってもらえた」と感じるのである。

参考・引用文献

『教育カウンセラー標準テキスト』；図書文化、日本教育カウンセラー協会編、2004
『学校カウンセリング』；中央法規、寺田晃・佐藤怜・大山正博・宮越孝 編、1993
『臨床家族心理学』；福村出版、秋山邦久 著、2009

（協会理事 上級カウンセラー 浅沼知一）